ベジエのジャパン祭の問題

―　スタッフとして招かれた日本人のレポート　―

目次

0．ジャパン祭の紹介と自己紹介

1．フランスを縦断する理由と出発前のコミュニケーション不全

2．12 月 6 日木曜日

2－1．日本から来た三人との出会い

2－2．独立した寝室がない、日本から来た歌手の宿泊問題

2－3．観光は中止、夕食は遅すぎ

3．12 月 7 日金曜日

3－1．朝食は自費で

3－2．モンペリエのホテルのエントランスホールで三時間待ち

3－3．私の名前が名簿にない、私の宿泊問題

3－4．　日本人歌手のコンサートに関する機材の問題

3－5．ミュージシャン M さんとの出会い、M さんの宿泊問題

3－6．夕食はふるまわれず

3－7．準備されていない通訳

3－8．ストレスとショックで不眠に

4．12 月 8 日土曜日

4－1．相変わらず届かないプロジェクター、歌手は十分な準備ができない

4－2．伝統文化のブースも、業者さんたちのブースもない

4－3. 領事が訪問、スピーチの機会は設けられていなかった

4－4. M さんの前で受けた最初の言葉の暴力

4－5. 日本人歌手のコンサート：機材の問題と予定の十分の一の観客数、おそらくはコンサートの宣伝がなされていない

4－6. セクハラ…？

4－7. 日本のインターネットテレビ局のブースがない

4－8. M さんも日本人スタッフも泊まる場所がない

4－9. 前日より更に深まる不眠

5. 12 月 9 日日曜日

5－1. M さんの条件に関する主催者の嘘

5－2. 日本文化への侮辱

5－3. M さんの泊まる場所がなく、個人所有の機材も紛失又は盗難

5－4. 駐車場と車で二度目の言葉の暴力

6. 12 月 10 日月曜日：電話で最後の連絡

7. 飲食スタンドの問題　～ある飲食スタンドスタッフの証言～

7-1. 臨時スタッフには情報がない、飲食スタンド用の準備も何もなかった

7-2. 業者さんに食事が提供されない

7-3. 常温保存の寿司、又は冷蔵でも翌日まで持ち越された寿司

7-4. 主催者は一人の業者さんの電気湯沸かしポットを取り上げた…何故？

8. アソシエーションが支払ったもの、まだ支払われていないもの

9. これからしようと思っていること

0. ジャパン祭の紹介と自己紹介

私は現在フランスのフランス北部に住んでいる、FLE 専攻修士二年に在籍する日本人学生です。私は 2009 年から 2011 年までモンペリエ第三大学ポール・ヴァレリーにて、語学と修士一年の課程を学んでおりました。

Assiana は代表者が M.A.さん、siret が 50894938500019 です*[1]。このアソシエーションは、「フランスにおける日本文化の地位の向上、及び日本におけるフランス(モンペリエやラングドック・ルシヨン地方の)文化の地位向上を目的とした日仏アソシエーション*[2]」です。

ジャパン祭は 2012 年 12 月 8〜9 日にベジエ市にて行われ、主催はアソシエーション Assiana ととその代表者 M.A.さんでした。私は 2010 年の 5 月と 10 月に行われたジャパン祭に既に参加したことがあり、その関係で主催の M.A.さんに招かれていました。前の二回の時も、必要なものが足りない(机や椅子)、段取りがなっていない(主な舞台のタイムスケジュールがない、業者さん用の配置図もないなど)といった問題はありましたが、それでも、今回に関しての被害は、私が参加した二回と比べて格段に深刻だと感じています。

1. フランスを縦断する理由と出発前のコミュニケーション不全

私はジャパン祭の期間中に自分が見たことや体験したことしか語れません。期間中に私の身の上に起きたことをご理解いただくには、話を始めるにあたって数週間さかのぼる必要があります。

2012 年の 8 月の時点で M.A.さんは、着付けができる人が欲しいからという理由で私に来てくれるよう要請をだしていました。私は旅行や勉強に忙しく、またウェブメールのトラブルもあり、そう定期的には返事をできずにいました。8 月の終わりには私からの返事がないという理由で「ADIEU(長く会わない時や二度と会わない時の別れの言葉)」で終わるメールをもらったこともあります。この時は、メールが迷惑メールボックスに入ってしまっていたことを説明すると、向こうからメールで謝ってきました。

---

*[1] *1 Les Rchos - BILANS GRATUITS -： http://www.bilansgratuits.fr/ASSIANA-%2834070%29--50894938500019.htm （2012 年 12 月 15 日参照）
Les bonnes adresses asiatiques !：http://www.myasia.fr/associations-asiatiques/ (2012 年 12 月 15 日参照)

[2] *2 Assiana ホームページ http://www.assiana.fr/ （2012 年 12 月 15 日参照）

11 月の初めごろ、私は承諾の返事をしました。私がメールで向こうに求めたのは、交通費と期間中だけの宿泊費でした。友人に会うために余計に滞在する費用は求めなかったのですが、私がモンペリエにいる間のすべての期間の宿泊費を向こうが出すとの提案をされ、私は有難くその話を受けることにしました。2012 年 12 月 4 日のメールを引用します。「<…略…> *je suis interréssé que tu viens travaillé avec nous,comme je te disais on prend en charge le transport (<…略…>), hebergement repas et salaire.ça serait bien si on parle au téléphone pour t'expliquer un peu, mais je viens de t'envoyer le programme , tu pourais participer pour kimono, et autres choses.* <…略…>」「訳：来て一緒に働いてくれると嬉しい、前に言ってたように交通費と（中略）宿泊費、食事、バイト代を出すよ。説明するのに電話で話せたらいいんだけど。でも今プログラムを送ったところだ。着つけや他のことで参加してもらえると思う。」（原文には手を加えていません。）電話で条件について話しました。前のメールにあるように、以下のような約束がなされました。

向こうから：

- 交通費を負担すること

- 祭の期間プラス 2～3 日の宿泊費を負担すること（ホテルをとってくれるよう頼みました）

- 祭の間の食事を負担すること

- 伝統文化のアトリエをするときに必要なすべてのものを準備すること（着物を着せる相手の人も含めて）

私の側から：

- 別な日本人女性とその方ご自身の着物で着付けのデモンストレーションをすること

- 伝統文化のアトリエを担当すること

この時は、南フランスまで 600km の旅をすることを喜んでいました。というのも、主催者はメールで、漫画やポップカルチャーと並んで伝統文化を普及させることの重要性を繰り返し言っていたからです。私は喜んでいました。なぜなら、私は自国の文化に誇りを持っており、又これは旧交を温める機会でもあったからです。

11 月の半ばごろ、私は旅行の準備(TGV のチケット、のちに払い戻される予定)と着付けの準備を始めました。泊まる予定のホテルの住所、一緒に着付けをする日本人女性の連絡先を尋ねましたが、連絡自体は取りあっているのに、一向に確かなことが知らされません。出発の前夜 23 時 55 分、この時になっても未だ私は翌日に泊まるのがベジエ市なのかモンペリエ市なのか知らない状態でした。私は、M.A.さんと、L. R.さんという彼の右腕として働くフランス人女性にメールを書きました。幸いにも L. R.さんは 5 分後に電話をくれ、モンペリエの St.Roch 駅に迎えに来ると約束してくれました。

2．12 月 6 日木曜日

2－1．日本から来た三人との出会い

モンペリエの駅には午後に着きました。L.R.さんはまだ来ていませんでしたが、10 分ほど遅れるというメールが届いていました。もうじき日本人が三人着くので彼らと合流するようにとのことでした。私は他にも私のような人がいるのかと思ったのですが、到着してみると日本から招かれた人々でした。

- 日本人歌手：10 年のキャリアを誇るアイドル。彼女のキャリアに傷をつけぬよう、ここでは名前を伏せます。

- ホテル業界で働いている方：Assiana と提携をする企画が進んでいました。M.A.さんは彼にポップ歌手を探してほしいと頼んでいました。

- 日本のインターネットテレビ局の方：ホテル業界さんの方頼まれ歌手に連絡をとる。ルポルタージュのために歌手に同行。

上記の男性二人が歌手にこの仕事の話を持ってきたため、彼らは歌手のマネージャーのような感じでした。私については、三人ははじめ通訳だと思っていたようです。というのも、L. R.さんはフランス語しか話せず、日本語とフランス語を話すのは私しかいなかったからです。

2－2．独立した寝室がない、日本から来た歌手の宿泊問題

Assiana 代表者の右腕である L. R.さんは私たちをホテルに連れて行きましたが、ここで思いがけないことが待っていました。彼女が予約をしたのは前日のことでした。彼女の上司は男性二人・女性二人のために部屋を準備するようにと言

いつけていたので、L. R.さんはツインの部屋を二部屋予約していました。もし四人の日本人が同じ団体に所属する一団だったとしたらそれも可能だったでしょう。ですが、特に歌手にとっては悪い意味でのサプライズでした。彼女は歌手として土曜日のコンサートに向けて体を休め、心構えをする必要がありました。なのに、準備されていたのはベッドが二つ並んだ二人用の部屋だったのです…当然、彼女はたった 30 分前に知り合った学生と同じ部屋に泊まることに納得はしませんでした。私は L. R.さんに、歌手にとって独立した寝室があることの重要性を説明し、彼女も日本人アイドルの為に部屋を変えることを承諾しました。男性陣にも同じことをしてくれるよう頼んだのですが―というのも二人は同じ会社の所属ではなかったので―、部屋が余っておらず、二人は同じ部屋を共有せざるを得ませんでした。歌手が二週間以上前に頼んだもの(加湿器や電気ポットなど)は、期間中一切準備されなかったことも併記しておきます。

2－3. 観光は中止、夕食は遅すぎ

ホテルに落ち着いて数分が経った 16 時半ごろ、アソシエーションの代表は満面の笑みでようやく現れました。彼は 17 時ごろに少し観光し、18 時半ごろには一緒に食事をしに行こうと提案しました。数分後、彼はまたどこかへ行きました。この約束は何度も変更され、観光は中止になりました。30 時間に及ぶ旅で疲れていた三人の日本人は、歌手をなるべく早く休ませようと、ポケットマネーでレストランに行きました。

M.A.さんとその右腕が戻ってきたのは 21 時ごろです。フランス人二人、日本人男性二人と私で l'Hôtel de Région の近くのレストランに行きました。アソシエーションの代表者は、三人の日本人の食事を全て請け負うこと、高級レストランに連れて行くこと、他のホテル関係者などとの会談の場を設けることなどを約束していたことを付け加えておきます。しかし日本人一向にとってはこれが主催者と食事をする最初で最後の機会でした。

食事中には、翌日にベジエ市に移動する方法を話し合いました。私は、なぜ主催者は日本から来た三人をベジエでなくモンペリエに宿泊させたのだろうと思いました。私は金曜日の朝ポール・ヴァレリー大学で約束があったため木曜の夜はモンペリエでの宿泊を希望しており、あるいはそのせいかもしれません。が、それは私の仕事ではありませんでした。主催者の二人は私がモンペリエをよく知っていると分かっていたのですから、モンペリエのホテルを私の為に、ベジエのホテルを日本からの三人の為に選択することもできたはずです。

アソシエーションの代表者の日本語レベルの都合で、私はホテル業界の方―ホホテル業界さんと呼ぶことにしましょう―と主催者の間で誤解の無いようにコミュニケーションを手助けしなくてはなりませんでした。彼らの間での会話は英語と日本語でした。M.A.さんは最後にこう約束しました。

―正午にトラックで来て、荷物を全部と歌手、男性陣の内の一人を連れて行く

―14 時に残りの二人の為に友達を来させる

3．12 月 7 日金曜日

3－1．朝食は自費で

主催者が食事代を全て負担するはずが、四人の日本人の為の朝食は予約されていませんでした。私は残りの三人に朝食を摂るにはお金を払わなくてはならないことと、自分は大学への道すがら食べ物を買うつもりであることを説明しました。彼らが自分で選択できるよう、スーパーやカフェがどこにあるかも説明しました。三人はスーパーに行くことにしました。

ホテルへは 11 時前に戻り、私は居間で買ってきた菓子パンを食べました。(アパルトマンタイプのホテルだったので、居間とキッチンがついていたのです。)他の三人は、自分で買ってきた食材を調理していました。

3－2．モンペリエのホテルのエントランスホールで三時間待ち

正午にチェックアウトでした。アソシエーションの責任者は時間通りには現れませんでした。私は M.A.さんが大抵遅れてくると知っていたので(二回ほど約束をすっぽかされ、何の連絡もなしに一時間以上待たされたこともあります)、彼とその右腕に電話をしましたが、留守電になっていました。私は三人にコメディー広場だけの短い観光をしないかと提案しました。私の提案は気に入ってもらえました。彼らはこの後、ベジエでも他の場所でも観光の時間はとれない予定だったのです。ホテル業界さんはそれでもトラックが来た時の為に荷物と共にホテルに残りました。

アイドルとインターネットテレビ局の方―彼のことは TV さんと呼ぶことにします―は彼らの「ガイド(私)」と出発し、モンペリエのコメディー広場を 90 分観光しました。私たちが戻ったのは 14 時でした。主催者もその友人も未だに

姿を見せていませんでした。彼らが到着したのは 15 時ごろです。Assiana の責任者はトラックではなく自分の車で着ましたが…どうでもよいことです。私たちはベジエに向けて出発し、45 分後に到着しました。

3－3. 私の名前が名簿にない、私の宿泊問題

ベジエの B&B ホテルに着いたとき受け付けは閉まっていましたが、主催者は招かれた人の名前と部屋番号、部屋に入るためのコードを記載したリストを持っていたので受付をする必要はありませんでした。彼はホテル業界さんさんにリストを見せると、部屋番号とコードを携帯にメモさせました。主催者はすぐに出発したがっていたので私も自分の部屋番号とコードを尋ねたのですが、私の名前はリストの中にはありませんでした。「OK、じゃあ俺が戻るまで俺の部屋を使ってくれ。でもこれはベッドが二つある俺の部屋だ、おれが戻ったら部屋を変えてくれ。」そう言われ、その提案を私はのみました。扉の前の自動機械で別の部屋を予約することもできたはずなのですが…。夜には戻って私たちを食事をすると約束し、彼はまた出ていきました。

3－4. 日本人歌手のコンサートに関する機材の問題

会場は徒歩五分の場所でした。歌手と日本人二人は前もって会場に行ってみることを希望し、私は言葉の問題でお手伝いするために同行しました。会場では二つのホールの中でそれぞれ設営中でした。アイドルはリハーサル、少なくとも必要な機材の確認を希望しましたが、スタッフは何も知りませんでした。その内の一人の答えでは、機材の到着は翌日になるだろうということでした。

歌手の出身地は岩手県、2011 年 3 月 11 日の津波で最も被害を受けた場所です。フランス人の中にも、全てが荒々しい津波によって破壊されて水に浸かり、その水面では火が燃えているという街の写真を覚えている方がいるかもしれません。それが大槌町、彼女の故郷でした。彼女のお父様は未だに見つかっていないそうです。自分の街がどうだったのかを説明し、地震の二週間後に自分で撮った写真を見せるため、プロジェクターと通訳が必要でした。彼女は、出発の少なくとも二週間前には舞台で使うための文をメールで送り、通訳さんも頼んでいました。けれどもこの時点でも歌手は通訳さんと連絡が取れていませんでした。ホテル業界さんは主催者に通訳の電話番号を聞き、どうにか連絡先を手に入れていました。

3－5. ミュージシャン M さんとの出会い、M さんの宿泊問題

M さんと私たちは会場のホールの前で面識を得ました。私たちがその場に着いたとき、彼は所在なさげにそこにいました。M さんはフランスと日本のクオーターで、フランス生まれのフランス育ちです。彼はバイリンガルで、歌手が必要な情報を得るのをとても助けてくれました。

私たちは彼に一体何をしていたのか、どこに泊まるのかを尋ねました。すると彼はこのように説明してくれました。

―音楽シーンへは日本でデビュー

―自分の生まれた国で自分のことを知ってもらうためにプロモーション活動をしたいと思っている

―現在はフランスで自分のプロモーション活動をしているところである

―ここへは Genkibaka というアソシエーションの仲介で招かれている

―ホテルの名前や住所はまだ分からない

―交通費は自費で、ギャラもなし、ただしイベントの主催者がイベント期間中すべての宿泊と食事を保証するという条件で来ている

―この条件は Assiana の責任者により電話で約束されている

―M.A.さんに言われて、ホテルに落ち着くために一時間以上もホールの中で待たされている

この青年は一度も主催者に会ったことがありませんでした。しかし私は主催者を二年以上前から知っており、彼がかなり頻繁に遅刻をすることや常に何かを忘れていることなども知っていました。日本から来た三人も、主催者がすぐには来ないだろうと難なく察することができていました。もう日が暮れていました。私たちはホテルに彼を招き、少なくとも自分の部屋に落ち着けるまではそこにいようと提案しました。

私たちのホテルに着き、青年は M.A.さんに電話をしました。主催者は、今度は Genkibaka が青年の世話をしているのだから Genkibaka に頼むようにと指示をしました。次いで彼は Genkibaka にホテルの名前と住所を尋ね、宿泊先

を知ることはできましたが、Genkibaka の名前で予約がされているので彼らの到着(22 時半頃)を待たなくてはならない、ということが判明しました。

「なぜ？」と私は思いました。別の日本人スタッフから、予定されていたフランスのバンドの代わりに日本人ミュージシャンが来ると聞いていたからです。確かに M さんは Genkibaka の仲介で来てはいましたが、代理を探していたのはイベントの主催者なのに…宿泊や食事の世話をするのは Assiana であるべきなのです。

3－6. 夕食はふるまわれず

日本人四人はモンペリエ出発以来何も食べていないので空腹を覚えました。四人は食べ物を買いにスーパーに行くことにし、若きミュージシャンも同行することにしました。スーパーは少々遠かったのですが、非常に親切な方に出会い、車で連れて行ってもらい、帰りも迎えに来て下さり送って頂きました。歌手は部屋に落ち着き、買ってきたものを食べ、休むことにしました。

残りの四人、男性三人と私は M さんが Genkibaka と一緒に泊まることになっていたホテルのレストランに食事に行きました。ホテル業界さんが全員分奢ってくれました。この日、アソシエーションは私たち五人全員の食事に関して一銭も支払いませんでした。

3－7. 準備されていない通訳

食事の間、22 時ごろ、ホテル業界さんは通訳さんと連絡を取ることができました。けれどもホテル業界さんを待っていたのは更にひどいサプライズでした。主催者が通訳として紹介した人はプロでもなく言語レベルも高くはなかったのです。更に、アソシエーションの責任者が「通訳」さんに頼んだのは、モンペリエの旧市街観光だったのです…。「通訳」さんの方も何も知らされておらず、とても驚いていました。けれども、彼女はできるだけのことはしました。「通訳」さんは、翻訳の仕事をすることもある友人に歌手の書いた文を訳してくれるように頼み、日本語を多少話せるフランス人の友人に、翻訳してくれた人の代わりに舞台で文を読んでほしいとお願いしたのです。けれども文章が長かったので、彼らは翌日までにはきちんと準備をすることができませんでした。

レストランを出たのは 23 時半頃でした。M.A.さんは全く姿を見せませんでした。私が使っているのが彼の部屋だと言っていたので、私は彼が戻ってくるのではないかと少し不安でした。シャワーを浴びているときや寝ているときに部屋に入られるのが嫌だったのです。私はポストイットを一枚扉に貼り、部屋に入らないでほしいと書きました。

3－8. ストレスとショックで不眠に

ベッドに入りましたが寝付けませんでした。前回二回のイベントに参加したときには、私は招待されてきたアーティストとは交流がなかったのです。それでもその時は、私は主催者がアーティストに敬意を持って接していると信じていたのですが。私の前に現実が立ちふさがっていました。

4. 12 月 8 日土曜日

4－1. 相変わらず届かないプロジェクター、歌手は十分な準備ができない

アイドルは 10 時にリハーサルでした。彼女はどちらかといえば映像の方を試したかったのですが、機材の到着の遅れのせいでできませんでした。リハーサルは音響関係だけでした。

同じ頃に、歌手はようやく「通訳」さんに会うことができました。「通訳」さんは、日本人翻訳家とアナウンサー役フランス人の即席のチームを組んでいました。歌手と即席通訳チームは準備の為に二回話し合いましたが、この二人の方も元々は飲食スタンドや伝統文化ブースの担当だったので、時間は限られていました。

4－2. 伝統文化のブースも、業者さんたちのブースもない

開始の時間をきちんと分かっている人は誰もいませんでした。(私がそれを知ったのはイベントの後でした。告知はされていた開場は 10 時でした。)10 時ごろ、歌手が 3 番ホールでリハーサルを始めるとすぐに、私は伝統文化コーナーの準備に行きました。主催者はメールで約束した会場の配置図をくれませんでした。アソシエーションの人間、つまり主催者とその右腕の二人に何度も尋ねたのですが、その度にそれぞれがばらばらの答えをよこすのです。36 平方メートルの

場所を準備すると約束されていたのに、結局準備されたのは 120×70cm の机一つだけでした。他に机を探しても無駄で、明らかに数が不足していました。他の業者さんも同じ問題を抱えていました。全員が自分の場所を探し、アソシエーションの代表に質問を投げかけていましたが、彼の答えは常に「あっちの方だよ」、「後で行くから」、「Ok、でも後で！」といったものでした。

4－3. 領事が訪問、スピーチの機会は設けられていなかった

この混沌とした中に、11 時ごろ、マルセイユの総領事が招待に応える形で主催者のもとを訪れました。総領事は開会式の為にスピーチを準備してきていたのですが、しかし(当然と言うべきか)スピーチの機会はありませんでした。主催者がしたのは、ぐちゃぐちゃの中を案内し、自分の考えを説明することだけでした。

4－4. M さんの前で受けた最初の言葉の暴力

私と一緒に着付けのデモンストレーションをするはずの女性が飲食スタンド担当で自分の着物も持っていないと知り、混沌の中、私は自分に課せられた仕事をあきらめ、アーティストたちのお世話をすることに決めました。ミュージシャンたちは自分のタイムスケジュールを知りませんでした。主催者は 12 月 4 日の時点で私に時間割をくれていましたが、私が得た情報と Midi Libre 紙のインターネットページの情報との間で既に矛盾がありました。(下線の行を見てください。)

12 月 4 日のメールの引用

ホール 2

舞台：

12：30～13：30：武術のデモンストレーション(土日)

14：00～14：45：日本のグラビアアイドルのコンサート(土日)

14：55～15：40：Japan fashion weeks のファッションショー(土日)

15：45～16：40：コスプレ(土日)

<u>16：45～17：30：日本人歌手のコンサート(土)</u>

18 :00～18 :35 : Stevelakira のパフォーマンス(土)

19 :00～20 :00 : H（フランスのバンド）と M さんのライブ

20 :45～22 :00 : カラオケ（土）

Midi Libre 紙の引用*[3]：

領事から日本のスターへ

はず初めにギャングマンスタイルで登場の歌手(記事内では実名)は、アジアではとても知られている存在だ。彼女の活動履歴には、300 を数えるゲームやパソコン、アニメのサウンドトラックが含まれているのだ。

メインタイトルでもエンディングでも、彼女の姿はいたる所に見受けられる。コンサートは土曜の 19 時に予定されている。

次いで、マルセイユの日本領事・佐藤正明の姿もあることだろう。佐藤氏は、プロヴァンスーアルプーコートダジュール、ラングドック・ルシヨン、ミディ・ピレネー、コルシカに居住する 3000 人もの日本人を束ねる領事館のトップに 位置する人物である。」

(アーティストの個人名のみ伏せています。)

M さんは何時に自分の演技ができるのかを知る必要があったので、M.A.さんにタイムスケジュールを尋ねました。スケジュールは何度も変更されていたので、私が知らされたスケジュールは信頼性が薄かったからです。全てを知っているのは主催者だけでした。私は主催者が何も言わずに逃げたりしないよう腕をつかみました。(イベントの間しばしば彼は質問に答えずに立ち去っていました。)私が最初に言葉の暴力を受けたのはこの時でした。

彼はこう答えました。

« Pourquoi tu fais manager de M? C'est pas ton travail! Est-ce que son nom est dans le planning? (Il y était, au moins dans le planning que j'avais reçu

*[3] Midi Libre：http://www.midilibre.fr/2012/12/06/le-japan-matsuri-va-ravir-le-coeur-des-12-35-ans,606760.php (2012 年 12 月 14 日参照)

par e-mail le04/12/2012.) **Non! Ferme ta gueule, fais ton travail, moi, je fais mon travail! C'est moi l'organisateur!! »**

訳：「なんでお前はＭのマネージャーをしてるんだ？それはお前の仕事じゃないだろ !そいつの名前はタイムスケジュールの中にあるのか？(少なくとも、私が 2012 年 12 月 4 日にもらったスケジュールの中にはありました。)**NO！口を閉じろ、自分の仕事をしろ、俺は俺の仕事をする！主催者は俺だ !!」**

言い終わるとすぐに彼は背をむけました。「勝手にしろ！」と、私はその背に向かって叫ぶのを堪えられませんでした。彼は振り返りもせずに立ち去りました。

M さんと私はオーガナイズするということのできないこのオーガナイザーから情報を引き出すことを諦め、舞台にかかわっている人々に直接頼みに行くことにしました。最終的に M さんのコンサートが行われたのは 20 時 10 分ごろ、お客さんは 10 人か 15 人でした。(その時、会場にはほとんどお客さんが残っていなかったのです。)

4－5. 日本人歌手のコンサート：機材の問題と予定の十分の一の観客数、おそらくはコンサートの宣伝がなされていない

M.A.さんは歌手に、トータルの来場者数は二万人を見込んでいると知らせていました。この数字から歌手は、自分のコンサートのお客さんを千人ほどと見積もっていました。なぜなら主催者は歌手に、イベントの広告とは別に彼女の大々的なプロモーションを行うと約束していたからです。

実際には、TV さんの見積もりでは全体の来場者数では最大二千人程度だろうとのことでした。モンペリエの街中では、イベントのチラシやポスターを見かけることはありましたが、歌手の名前はそこには記されていませんでした。

主催者はようやく彼女のコンサートの時間を知らせてきました。時間は 16 時ごろ、別な日本人アーティストの後でした。アイドルは時間通りに着きました。来場者も舞台のタイムスケジュールを知らされていないので、お客さんはあまりいませんでした。プロジェクターもスクリーンもありませんでした。理由のわかる人は誰もいません。歌手は TV さんに、パソコンを持ってお客さんの間に入って地震の写真を見せてくれるよう頼みました。「通訳チーム」はこのアニメ音楽のスターのコンサートのひと時を共に楽しみたいというお客さんを集めるために、場内アナウンスをすることにしました。それを待っている間に、

ビデオプロジェクターがもうじき届くという知らせが入りました。結局コンサートは 16 時 50 分ごろに行われ、お客さんは百人ほどでした。

4－6. セクハラ…？

M さんのコンサートの前に、Assiana の代表者は自分が午後に放った暴言を詫びるため、私に会いに来ました。私はまだ怒っていましたが、大人としてその謝罪は受け入れました。しかしながら、その直後、主催者は他の業者さんに私を紹介するのに**« c'est ma copine »「俺の彼女」と言ってのけ、私を抱き寄せたのです**。今に至るまでに私は、彼をたとえ冗談でも恋い慕ったことはありませんし、向こうも私が男性と身体的接触を持つことを嫌っていると知っていました。(このことを私はかなり頻繁に言っていました。)生理的嫌悪感から私は腕を振り払いました。向こうはやや気分を害した様子でしたが、少なくとも他の人の前では何も言いませんでした。

4－7. 日本のインターネットテレビ局のブースがない

TV さんは、日本のネットユーザーにイベントの雰囲気を伝え歌手のプロモーションをするために、インターネットで番組を配信するという仕事を負っていました。M.A.さんの常で、このイベントの為だけに日本から来た人の為にも一切場所が準備されていました。

M.A.さんは 60×60 の小さなテーブルを持ってきて、日本のグラビアアイドルのプロモーターのスタンドの横に設置しました。このプロモーターさんは親切にも日本のテレビが隣に席を構えることを受け入れ、電源も一つ貸してくれました。彼のおかげで TV さんは番組を生放送することができたのです。

4－8. M さんも日本人スタッフも泊まる場所がない

主催者が協力を求めた日本人は皆モンペリエに住んでいました。翌日の交通の心配がないように、会場である展示場 Parc des Expositions のすぐそばに彼らの泊まるところを準備すると主催者は約束していました。しかし、例によって何の準備もされていませんでした。そこにいたのは日本人女性が四人、日本人青年が一人と M さんでした。M.A.さんは M さんの宿泊の世話をすることに同意はしていませんでしたが、彼の右腕は、私が前夜に泊まった主催者名義で予

約されている部屋の他に、ツインの部屋を二部屋用意してくれました。つまり、私たちは女性の二人組が二組と男性の二人組が一組で、部屋はツインが三部屋用意されたわけです。幸い全員が自分のベッドを確保できました。けれども私は主催者からの全員に対する(もちろん皮肉な意味での)ご親切な歓迎に涙をこらえることができませんでした。誰も侮辱されるためにそこにいたわけではないのです。

4－9. 前日より更に深まる不眠

その夜、不眠は前夜よりひどくなりました。ベッドの中で、主催者からの言葉の暴力、アーティストたちへのひどい扱い、奴隷状態で飲食スタンドで使われているスタッフのことに思いを馳せました。夜中の十二時ごろにベッドに入ったのですが、疲れにも関わらず、普段ならすぐに眠りに落ちるのに、朝の 4 時半頃までは少なくとも目がさえていました。

5. 12 月 9 日日曜日

5－1. M さんの条件に関する主催者の嘘

主催者が私の為に日曜日の夜のホテルを予約したか聞こうとして(現在私は北部に居住しています)、私は M.A.さんの右腕に電話をかけました。あの人とは話もしたくなかったからです。しかし彼の右腕は自分の上司に携帯を渡し、私は宿泊に関する質問を主催者にしなくてはなりませんでした。彼は「心配しなくていい、もう準備したから」と答えました。それを聞いて私は安心し(実際、信じるなんて馬鹿だったと思います)、「OK、有難う、また後で」と言って電話を切ろうとしました。ところが、彼は前日から話題にもしていないことを続けて話してきたのです。

« En fait, pour aujourd'hui ne t'occupe jamais de M, il m'énerve! Dis à tous, ne lui donne pas à manger ni à boire, aujourd'hui personne ne s'occupe de lui, il ne vient pas sur le stand d'Assiana (où on devait faire l'atelier d'arts traditionnels) **ni sur la buvette! M, il est venu librement, KATTE-NI KIMASHITA** (« il est venu librement » en japonais)**, tu comprends? C'est Genkibaka qui devait s'occuper de lui, mais ils sont partis et ils l'ont laissé sur place. Hier soir j'ai déjà payé l'hébergement pour lui, moi, je suis déjà trop gentil d'avoir payé pour lui!! »**

訳：「ところで、今日はMの世話はするなよ、あいつは俺をイライラさせるんだ！みんなに言っとけ、あいつには食べるものも飲むものもやるな、今日は誰もあいつをかまうな、Assianaのスタンド(伝統文化のアトリエを行う場所)にも飲食コーナーにも来させるな !Mは勝手に来たんだ、カッテニキマシタ(ここだけ日本語で)、分かるか？あいつの面倒を見るのはGenkibakaのはずなのに、あいつらは行っちまった、あいつらはMを置いてったんだ。昨日の夜、俺は既にあいつの為のホテル代を出したんだ、あいつの為に払ってやったなんて俺は既に親切すぎるぐらいだ !!」

主催者が私の言葉を聞かないであろうことは既に十分分かっていたので、私はこう答えました。「OK、今日は特にMさんに関しては何もそっちには頼まない。けど、もし誰もMさんに構うなと言うなら、みんなには自分で言って。私はあんたに何も頼まないし、何も言わない。」そして私は電話を切りました。私はこのミュージシャンのことをかまわないとは約束しませんでした。逆のことをするつもりだったからです。

金曜日、主催者がMさんを6時間以上も待たせたことを私はよく知っています。Genkibakaの方々は、余っているベッドがあったので、このミュージシャンを自分たちの部屋に迎えてくれました。けれども余ったベッドがあったのは偶然です。確かに土曜日の夜、主催者はMさんにベッドを提供しました。けれどもそれは飲食スタンドの他のスタッフと同室だったからでした。このスタッフは、会場であるベジエ市の展示場近くに泊まる必要のあったスタッフの中では唯一の男性スタッフでした。主催者はこのスタッフの為にツインの部屋を用意しましたが、それは M さんの為にではありませんでした。(そのホテルでは、ベッド数がいくつかというのは関係なく、一室の値段は同じでした。)敢えて言うならば、この若きミュージシャンにベッドを提供したのはこの男性スタッフだったのです。Mさんが泊まる場所を確保できたのはこの時も偶然だったのです。

Assianaの責任者はMさんが勝手に来たと主張しましたが、その言葉には全く信用が置けませんでした。まず第一に、主催者はイベントの間中一度も自分の仕事を完遂していないのです。招待されたアーティストであろうと業者であろうとスタッフであろうと、主催者に約束されたものをきちんと受け取った人は誰もいません。間違いを犯さない人間はいません。けれども、これはあまりといえばあまりです。私にはこの主催者を信じないだけの十分な理由がありました。第二に、Mさんは自分の職業に誇りを持っています。彼はミュージシャンとしてやってきたのです。もしMさんがイベントに勝手に来たのだとしたら、自分の演技をする場を与えられることはないでしょう。もし自由気ままにやっ

てきたのだとしたら、どうして彼の名前は 12 月 4 日に受け取ったスケジュールの中に入っているのでしょうか？(4－4.参照)M さんの条件に関してこの男が嘘を言っていると断じるのは当然のことでした。

5－2. 日本文化への侮辱

この日わたしは主催者との接触を避け、場所もないのに着付けのデモンストレーションをしろなどと言われないように初めから着物を着ていました。幸いにも主催者は Assiana のブース、つまり伝統文化のブースなど気にも留めませんでした。(それでも私たちは、怒って帰ってしまった業者さんの机や椅子を使って伝統文化のブースを開いていました。)

ホテル業界さんも、空手(日本の武術)のデモンストレーションをする場を与えられていませんでした。事前に必要なものを主催者の自宅に送っていたのに、主催者はその送られた品も会場に持ってきてはいませんでした。正確を期すため、このデモンストレーションは主催者の側から頼まれたものであることを付け加えておきます。

イベントの二日後、私は来場者に配られた小冊子を手に入れました。日本文化のコーナー(画像参照)では、以下のようなことが告知されていました：

—デモンストレーションと体験講座：武術、書道、折り紙、着付け教室、風呂敷、茶の湯

—日本料理教室

—マスター・シェフの大会

—伝統衣装のファッションショー

来場者がイベント会場で見つけられたのは、武術のデモンストレーション(武術担当のアソシエーションがいました）と風呂敷と折り紙のアトリエだけだったでしょう。

Assiana の責任者は道具も事前連絡もなにも準備していませんでした。マスター・シェフの大会や日本料理教室なんて、厨房もなしにどうやればいいのでしょう？折り紙用の紙を買いに行ったのは別なスタッフでした。茶道や習字の道具は何もありませんでした。

私について言うと、私は主に着付けの担当として呼ばれていたはずです。しかし、着付けができるのは私だけだったのに、主催者からは伝統衣装のファッションショーをするなどとは全く聞いていませんでした。確かに着物は百枚ほどあります。(2010 年に寄贈者を探し、連絡を取り、送ったのは私です。)けれども、着付けのデモンストレーションの準備をする際に、着物を着るにはたくさんの小物が必要であることと主催者はその必要な小物を持っていないのだと何度も説明しました。そういった理由で私の側からは、自分で着物を持っている日本人をそちらで準備してほしいとお願いしたのです。（日本人でも着付けができないことはよくあります。）アソシエーションの着物でファッションショーをするのが難しいことは想像に難くないと思うのですが。更に、帯結びの説明についても私は何も聞かれていません…。「オビ(2 メートルもの長さの帯)」??少なくとも 3.5 メートルの長さが必要ですよ…!

イベントの終わりごろに主催者は、若きミュージシャンにこう口を漏らしたそうです。曰く、自分は日本文化に興味はない、イベントを主催しているのは単に稼ぐためだ、と。

5－3. M さんの泊まる場所がなく、個人所有の機材も紛失又は盗難

主催者が全く M さんの面倒をみないので、この若きミュージシャンは舞台スタッフと共に自分自身でコンサートを企画しました。リハーサルは午前中に行われ、14 時半にコンサートでした。舞台は素晴らしいものでしたが、機材の問題で完全に成功とは言い難いものでした。

ギターのアンプがなかったので、特殊なケーブルが必要でした。M さんはケーブルを自費でこのコンサートの為に買いました(80€)。リハーサルの後、スタッフの許可があったので M さんはケーブルを舞台上にそのまま置いておきました。けれどもコンサートの時にはケーブルは消えていたのです。なくされてしまったのか？盗まれてしまったのか？舞台はギターなしで行わなければなりませんでした。

このことについて M さんは主催者と話をしようとしましたが―なんといっても彼がすべての責任者なのですから―、主催者はこのアーティストとの接触を避けていました。主催者はこの夜も M さんの泊まる場所を用意していませんでした。この若きミュージシャンは、自らのアーティストという立場への侮辱以外は、主催者の側から何も受け取らずに帰らなくてはならなかったのです。

5－4. 駐車場と車で二度目の言葉の暴力

18 時ごろ、私は一人でホテルに行けるように、M.A.さんとその右腕に泊まるホテルの名前と住所を尋ねました。なぜなら、会場を撤退するにあたって彼らが忙しくなることが分かっていたからです。彼らの返事は、予約はしていないので M.A.さんかその友人が(彼の右腕は運転ができません)直接ホテルに連れて行って、その場で支払うというものでした。この痩せた男は、私に 30 分ほど待つように言いました。時は流れ、30 分、一時間、一時間半…。私が辛抱強く主催者を待っている間に、他の日本人スタッフは三々五々散ってゆき、19 時 45 分ごろには私は残っている最後の日本人でした。他の仲間と共に私も去るべきだったのでしょうが、宿泊先の都合でそこに残らなくてはならなかったのです。この待ち時間について、まだ残っていた他の業者の方々に私は愚痴をこぼしました。彼らは皆私の味方になってくれ、その中の一人、麻雀アソシエーション NANIKIRU の方だと思うのですが、その方がわざわざ私の面倒をみるようにと M.A.さんに言ってくれました。主催者は明らかに私の面倒をみたくなさそうでしたが、結局私をモンペリエのホテルに連れて行くことに同意しました。ところが、会場のホールを出るとすぐに、主催者は私を彼の右腕の家に連れて行くと言い出したのです。彼の右腕の家ですって !?ここまでに、木曜日、つまり四日前から私は主催者から受けたストレスのせいで何度も泣いていました。けれどもこの時はもう打ちのめされました。「約束、した！メールで、約束したのに !!ホテル用意するって、言ったのに !!!」私は日本語で、泣きながら、叫び、わめきました。

彼は言いました。**« Ne pleure pas, ça m'énerve! Ne parle pas en japonais, je ne comprends pas! NIHON-GO WAKARIMASEN»「泣くな、イライラする！日本語で喋るんじゃない、俺には分からん！ニホンゴ、ワカリマセン**(ここだけ日本語で)」日本語が分からない？けれども、ホテル業界さんと彼はしばしば日本語で話していました。私は彼の日本語レベルが大したことないのは知っていますが、それでも「約束」、「メール」、「ホテル」のようないくつかの単語を理解できることは確かです。でも仕方ありません、主催者が私の言ったことが分からないと主張するので、全く同じことをフランス語で繰り返しました。あちらは、そのことに関する契約があるのかと言い返し、そして彼の右腕の家に行くのを拒否した理由を聞いてきました。私が泣くと彼は「イライラする」らしいので、泣かないように多大なる努力をしながら、私は簡単に、イベントの期間プラス二日間ホテル代を負担することはメールで約束されていると答えました。彼を動かすには証拠が必要なのだ、と思いました。

私たちがいたのは駐車場で、二人の周囲には誰もいませでした。この後に続く暴言についての証人はいません。フランス語は私の母語ではないので、表現などが変わっている可能性はあります。けれども私は 2010 年に、フランス語の高度なレベルを保証してくれる DALF (Diplôme Approfondi de Langue Française) C1 の試験*[4]に受かっており、FLE 専攻の修士の友人たち(つまり将来のフランス語教師たち)の何人かは、私は既にヨーロッパの枠組みの中で一番上のレベルである C2 のレベルにあると保証してくれています。たとえ表現を変えてしまっていても、意味を間違うことはありません。

私たちは車に乗り込みました。お分かりいただけるかと思いますが、私は隣に座るのが嫌だったので、後ろに乗ろうとしました。すると**« Non, c'est interdit en France! ».「ダメだ、フランスではそれは禁止だ！」**と怒鳴られました。本当に？もしそれが本当なら、どうしてフランスの車には後部座席があるのでしょう？信じはしませんでしたが、私は命令に従いました。寒かったです。私は前日から風邪をひいており、ティッシュはトランクに入れたカバンに入っていたので、鼻をするしかありませんでした。すると主催者は彼のお気に入りのフレーズを繰り返しました。：**« Arrête de pleurer! Ça m'énerve! Tu veux que je te dépose sur place!? »「泣くのをやめろ！イライラする！この場において行かれたいのか !?」**車は既に走り出していましたが、私たちはまだ駐車場にいました。「はい」と答えて他の業者の方にモンペリエまで連れて行ってくださいとお願いした方がよかったのでしょう…けれども、哀れな日本人は馬鹿のよう

*[4] http://www.actilangue.com/Ressources/Diplome_langue_francaise.html (2012 年 12 月 13 日参照)

に沈黙を守りました。筋肉が少なく、身長 150 ㎝体重 43kg、動きにくい衣装をまとった女に何ができたでしょうか？

道中、彼はもう一度なぜ自分の提案を拒否したのかを尋ねてきました。私は、落ち着くために一人で過ごしたいこと、前々からの知り合いであっても(私と彼の右腕は二年以上前からの知り合いです)他人の家ではくつろげないこと、彼女のおばあ様が具合を悪くしており、彼女の邪魔になりたくないことなどを説明しました。

この説明の間、涙を堪えようとしましたが無駄でした。彼はイライラする気持ちを表現するのに十分なバリエーションを持っていました。**« Arrête de pleurer! Ça me déconcentre! J'aurai un accident à cause de toi! Tu veux mourir avec moi !? »「泣くのをやめろ！集中できなくなる！お前のせいで事故になるぞ！俺と一緒に死にたいのか !?」**もちろん嫌です。私は音をたてないようにマフラーに顔を埋めました。幸い、顔の上の二本の涙の運河は音をたてません。(でも私のマフラーは汚くなりました。)

道中、私たちはどちらかと言えば無言でしたが、時々彼は自分がどれほど忙しく、どれほど私の行動に不満であるかを説明していました。以下に思い出せたフレーズを記します。

« Pourquoi tu es méchante avec moi? Tu es toujours gentille avec M et avec tout le monde, mais pas avec moi! Pourquoi tu veux aller à l'hôtel à 8h du soir? Tu te couches à 8h? Pour moi c'est à 10h ou plus tard! Je t'ai promis de t'emmener à l'hôtel avant 8h, Ah? (Vers 18h il m'a dit de l'attendre 20 ou 30 minutes pour qu'il m'y emmène. Une promesse en l'air...) **La fermeture est très importante, t'as pas vu que je disais merci aux exposants? De plus il y aura des vols! Les exposants ils vont partir avec les tables et les chaises que j'avais louées! J'ai payé XXXX euros pour ça!** (J'ai du mal à mémoriser les chiffres en français.) **S'ils les volent, je dois payer XXXX euros de compensation pour ça! Tu peux me rembourser ces XXXX euros!? Ah!?»**

「どうしてお前は俺に対しては意地が悪いんだ？M や他の奴には親切なのに、俺には親切じゃない！どうしてお前は 8 時にホテルに行きたいんだ？お前は 8 時に寝るのか？俺にとっては寝るのは 10 時かそれよりも後だ！俺がお前を 8 時より前にホテルに連れて行くと約束したか、あぁん？(18 時ごろにホテルに連れて行くから 2～30 分待つように言われました。中身のない約束だったわけですが…)**撤退はすごく大事なんだ、俺が業者に有難うを言ってるのを見てなかったのか？おまけに盗みだってでるぞ！業者の奴らは俺が借りた机や椅子を**

持って行っちまう！俺は借りるのに XXXX€払ったんだ！(フランス語で数字を覚えるのは苦手です)もし盗まれたら弁償に XXXX€払わなけりゃならない！その XXXX€をお前が俺に返してくれるのか !?あぁん !?」

私たちはモンペリエに着きました。ホテルについて希望があるかと聞かれたので、旧市街に近いホテルをお願いしました。彼はホテル ibis Montpellier Sud を選びました。そこは旧市街からそんなに近くはありませんでしたが、トラムの停留所(4 番線、Garcia Lorca)がすぐ近くだったので、そこに泊まることに合意しました。

私はずっと泣いたままで、二人は ibis ホテルのエントランスに入りました。痩せたアラブ系の男と、涙の河を顔にはりつけたアジア系の民族衣装の女…受付の人はとても驚いたと思います。受付の女性は私に身分証の提示を求め、何を求められているのか理解するのに言語的な問題は私には全くありませんでした。ですが、疲れとストレスで脳が麻痺しており、私はすぐには答えられませんでした。M.A.さんは、涙を流す私の隣で何食わぬ様子を装っていました。彼はどうして私がそんな状態なのかを尋ねさえしました。そこまでだんまりを通していた私ですが、これを最後と思い、単純に「あんたのせいだ」と言い返しました。彼は何か言いたげでしたが、ベジエに戻るのに急ぐため、予約を続けました。11 日までの予約を頼んでいたのに、予約は一晩だけ、朝食もなしでした。「違う、火曜日まで。二晩です。」と私は言いました。彼の返事は「明日別のホテルに連れて行くから。OK ?」というものでした。翌日の分は払うつもりがないのだろうと思いましたが、この男と戦う気力は既になく、一晩だけ泊まることに同意しました。

受付の女性は非常に親切で、私に警察を呼ぶかどうか尋ねてくれました。エントランスホールにいた男性も私の味方になってくれました。私のことを全く知らない二人のフランス人は、私の味方でした。彼らはあの主催者と一体何があったのか、彼は身体的に又は精神的に私に攻撃を加えたのか、警察を呼びたいかどうかを聞いてくれました。正確を期すために、彼が身体的な暴力を加えることはなかったと言わなければならないでしょう。けれども、言葉の暴力は身体的な暴力よりも罪が軽いのでしょうか？

それでも私は警察は呼びませんでした。なぜなら、心労の為、何が起きたのかすべてを語ることもできませんでしたし、あのにこやかな男の被害者は私一人でもなかったからです。

自分では意識していませんでしたが、彼のことが怖かったのだと思います。その日は友達数人と夜を明かしました。その夜、疲れていたにもかかわらず、私はまんじりともしませんでした。その翌日もです。

6. 12 月 10 日月曜日：電話で最後の連絡

翌日、驚くべきことがありました。13 時 56 分、M.A.さんが私に電話を掛け、他のホテルに連れて行くから夜に待ち合わせをしたいというのです。Ibis ホテルの部屋は正午前にチェックアウトだったというのに。私はこう答えました。「今日の午後はショッピングをして、夜は友達とパーティー、友達の家に泊めてもらいます。とりあえず有難う、さようなら。」そして電話を切りました。彼の声を聴かず顔も見なくて済むよう、私はその夜の宿泊の権利を放棄しました。私は彼とは二度と会いたくありませんし、話もしたくありません。永遠の別れを告げる言葉である ADIEU と言わなかかったことを後悔しています。

7. 飲食スタンドの問題　～ある飲食スタンドスタッフの証言～

私は飲食スタンドにはおりませんでしたが、イベント後にあるスタッフが語ってくれたことをここに記します。

7-1. 臨時スタッフには情報が何もない、飲食スタンド用の準備も何もなかった

飲食スタンドのスタッフは主催者がこの二日間の為だけに雇った人たちです。けれども、雇うに当たって Assiana の責任者は仕事内容もバイト代も詳しくは教えていませんでした。スタッフはその場で調理をするとは知らされておらず、イベント会場に着いてからそのことを知ったのです(彼らは自分たちは売り子として働くのだと思っていました)。その場で調理をするようにというのは主催者の指示でしたが、何も準備はされていませんでした。調理道具も、食材も、台所もなしです。

スタッフは食材や調理道具を、開場後、急いでスーパーに買いに行かねばなりませんでした。台所がないので、水はトイレに汲みに行かなくてはなりません。

主催者とその家族はアラブのお菓子、お鮨のパックや冷凍の焼き鳥を持ってきましたが、それをいくらで売るのか知らされているスタッフはいませんでした。

7-2. 業者さんに食事が提供されない

ブースの出店料には無料の食事提供も含まれていました。飲食ブースに業者の方が食事を求めてくるのはあまりにも当然のことでした。しかしながら、スタッフと業者、来場者を区別するもの印はなにもありませんでした。そんなわけで午後の早い時間帯、飲食スタッフは業者であるとスタンドに現れた人には、確証はなくとも無料で食事を提供しなくてはなりませんでした。この状況を見て主催者は、ブース出店料の約束にもかかわらず食事を業者の人たちに提供することを禁止しました。スタッフは業者の人たちの契約について何も情報を持っていなかったので、アソシエーション責任者の指示に従うしかありませんでした。

7-3. 常温保存の寿司、又は冷蔵でも翌日まで持ち越された寿司

主催者が大量の寿司を持ってきた一方で、冷蔵庫は小さいのが一つだけでした。スタッフの一人は、寿司を冷蔵するために冷蔵庫と冷蔵ショーケースに入れました。ところがアソシエーションの責任者は、見た目がきれいになるようにとショーケースに大量の寿司を入れるのをやめさせ、残りの寿司を室温で保管させたのです。主催者が行ってしまうとすぐに(彼はイベント期間中ずっと場内をぶらぶらしていました)スタッフは冷蔵ショーケースに寿司を入れなおしました。

寿司の売れ行きはよくありませんでした。土曜の夜にはまだたくさんの寿司が残っていました。主催者は翌日も売ろうとそれを冷蔵で保存させました。スタッフの一人が食中毒の可能性があると注意を促しました。主催者は「ああ、そうだね！」と答えましたが、日曜日、彼は前日の寿司をまた売らせていました。

7-4. 主催者は一人の業者さんの電気湯沸かしポットを取り上げた…何故？

飲食スタンドには、電気湯沸かしポットが二つありました。これは温かい飲み物を作る用のものでした。午後になると、スタンドにはインスタントラーメンを作るお湯が欲しいという人たちがやってきました。コーヒーを作るのに使っていた水がミネラルウォーターだったので、その願いは受け入れられませんで

した。拒絶した後に、スタッフはスタンドの隣に設置されたテーブルにもう一つ別の電気湯沸かしポットがあるのを見つけました。このポットもアソシエーションの物だろうとスタッフは思いました。とても忙しかったので、このポットをセルフ・サービスで水道水で沸かしたお湯を提供するのに使うことにしました。しばらくすると主催者がスタンドにやってきて、そのポットはコーヒーを作るように借りたものだと言ってお湯の提供を禁止しました。しかし禁止されてもお湯を求める人たちはたくさんいました。スタッフはとても忙しく、お湯を頼まれることが無いよう、50 サンチームの支払いを要求することにしました。スタッフにとってそれはお湯を頼まれないようにする口実でしたが、それでもこの「口実」を受け入れる人たちもいました。この状況の中、一人の業者さんがお湯を求めにスタンドにやってきて、50 サンチームを請求したスタッフにそのポットは自分が主催者に貸したものだと証言したのです。スタッフはそのことを知りませんでした。この驚愕のさなか、Assiana の責任者がスタンドに戻ってきて、もう一度お湯の提供をやめるようにと言いました。それを聞いてポットの持ち主はポットを自分のブースに持ち帰ることにしました。というのも持ち主はラーメンを作るのにポットが必要で、飲食スタンドにはまだ他に二つポットがあったからです。

なぜ主催者は業者さんのポットを取り上げたのでしょうか？この業者さんはインスタントラーメンを販売していました。ラーメンの売れ行きは良く、けれども食べるにはお湯が必要でした。これは私の邪推になりますが…お湯がなければお客さんはラーメンが食べられません。お客さんはラーメンを食べない場合、お寿司を買うかもしれません…言い換えるなら、もしお客さんがラーメンを食べたなら、まだたくさん残っていたお寿司を買うことはないでしょう…。

ポットを返した後、主催者はスーパーに、自分のスタンドで売るためにカップラーメンを買いに行ったことを付け加えておきます。

8. アソシエーションが支払ったもの、まだ支払われていないもの

私が知る限りのことを記します。

主催者は 6 日から 9 日にかけての私の宿泊費を支払いました。10 日に関しては主催者に会うのを避けるために自分で権利を放棄しました。

主催者は日本から来た三人の宿泊費を払いましたが、ホテルのグレードはあらかじめ提示されていたクラスよりも低いものでした。

食事については、日本から来た三人の内の二人と私に夕食を一度、日本から来た三人に朝食を二回、私に朝食を一回支払っています。(主催者は日本から来た三人に、日本人がシェフをしている高級レストランに行くことや、経済界、ホテルや飲食業界の方とビジネスランチを摂ることも提案していました。)

主催者は私に交通費を返金していますが、正確には返還をしたのは彼の右腕です。他のスタッフが調理用具やガソリンの返金を求めているときに一緒に請求しました。(常のごとく混沌とした中でのことでした。)

M さんの宿泊費は土曜の夜に、偶然で払われただけです。

私のアルバイト代(金額不明)はまだ払われていません。

三人の日本人へは、違約金を払わなければならないでしょう。

三人の日本人、ミュージシャンの M さん、私に関する残りの食事代は返金されていません。

9. これからしようと思っていること

彼が日本文化に関することでもう仕事をしないようになるのが私の望みです。公的な機関や市役所、公民館、国際交流センターなどに手紙を書き、北部まで復讐に来られるのが怖いので警察にも相談をするつもりです。

これを読んだ方に、あのイベント主催者には私のことを何も言わないで下さるようお願いします。私は彼が恐ろしいのです。